

小松電機産業

防虫性能充実の新機種拡販へ

シートシャッター製造最大手

小松電機産業(社長 小松昭夫氏、本社・島根県松江市乃木福富町735-1-88)は食品工場や化学工場などで導入事例が豊富なシートシャッターのトップメーカー。自社ブランド品「門番」シリーズの普及を通して、防虫、防塵、室内保温など多様なニーズに応える。同社は昨年、屋外用の「門番」シリーズについて、防虫性能を充実させた新機種「マジックオプトロン門番」を発売した。光と色を調整する技術を採用。屋外の昆虫をシートシャッターの外側に寄せ付けず、屋内に居る昆虫をシートシャッターの内側へ誘引してシャッター開閉時に屋外へ送り出す仕組みを具現化した。差別化商品となる新機種を拡販し、シートシャッター市場でさらなる占有率向上を目指す。

光と色を調整



好明 堀江 マネージャ

の特性を踏まえ、外側に昆虫を誘引する光の波長域を遮る(誘引阻止率80%)。緑色の塩化ビニルシートを、内側には昆虫を誘引する黄色の塩化ビニルシートを採用した。設計技術部の堀江好明マネージャは「外部に居る虫に対して、建物内部から出る光の波長を大幅にカットして虫に見えない程度の波長にとど

め、シートシャッターの外側に虫を寄り付かせない。仮に虫が建物内に侵入した場合には、シートシャッターの内面に採用した、虫が好んで寄り付く黄色のシートに虫を誘導し、シートシャッターの開閉時に屋外へ送り出して虫を追い払うことが可能」と話す。同社は殺虫剤を使わずに光と色を調整することで昆虫の侵入を抑える独自視点を訴求。防虫性能の高いシートシャッターとして今期

の製造・加工工場を採用

が拡大。発売3年後に販売台数1千台を達成した。後に精密機械、化学医薬品、自動車、印刷などの業界へも販路を広げ、5年後には5千台に到達。現在は累計15万5千台の販売実績がある。当初屋外用のパイプ式を主体としていたが、顧客要求に応じていく中で、屋内用のパイプレス式、自立式、霜付き対策を講じて25度〜5度Cまでの低温倉庫の間仕切り用途で使える冷凍冷蔵庫仕様を投入。特に冷凍冷蔵仕様の「マイナス温度帯でもシートの動きにしやすいように低温用クリアシートを採用した。霜や水滴の付着防止機能を搭載するなど専用設計も



小松電機産業本社の外観

「門番」シリーズは建築物内の空調負荷を低減し、省エネルギーに貢献する環境製品でもある。「空調や冷凍冷蔵庫で温度管理を徹底している施設内で、どうしても窓や出入り口が開放状態になりがちな箇所シートシャッターを取り付けて、室内を間仕切ること、一層シビアな温度管理を実現する。実際、年間の電気代が下がったお客さまが居る(営業部長 藤原 旭氏)。温度管理に貢献する点も、実面で有利に働いているようだ。

「門番」シリーズは新市場を創出した商品として91年に「中小企業研究センター賞」と「ニュービジネス大賞」を受賞。2007年に国土交通大臣表彰を受けた。12年には「超高速happy gate門番システム」が第4回「ものづくり日本大賞」の製品・技術開発部門で優秀賞を受賞するなど、先進性のある商品開発で勲章も獲得している。



マジックオプトロン門番

「門番」の発売を機に高速開閉と高气密仕様が工場作業現場で屋外からの防虫、防塵対策に有効との認知が広がり、異物混入を嫌う食品関連分野の製造・加工工場で採用が拡大。発売3年後に販売台数1千台を達成した。後に精密機械、化学医薬品、自動車、印刷などの業界へも販路を広げ、5年後には5千台に到達。現在は累計15万5千台の販売実績がある。当初屋外用のパイプ式を主体としていたが、顧客要求に応じていく中で、屋内用のパイプレス式、自立式、霜付き対策を講じて25度〜5度Cまでの低温倉庫の間仕切り用途で使える冷凍冷蔵庫仕様を投入。特に冷凍冷蔵仕様の「マイナス温度帯でもシートの動きにしやすいように低温用クリアシートを採用した。霜や水滴の付着防止機能を搭載するなど専用設計も

「門番」シリーズは建築物内の空調負荷を低減し、省エネルギーに貢献する環境製品でもある。「空調や冷凍冷蔵庫で温度管理を徹底している施設内で、どうしても窓や出入り口が開放状態になりがちな箇所シートシャッターを取り付けて、室内を間仕切ること、一層シビアな温度管理を実現する。実際、年間の電気代が下がったお客さまが居る(営業部長 藤原 旭氏)。温度管理に貢献する点も、実面で有利に働いているようだ。

「門番」シリーズは新市場を創出した商品として91年に「中小企業研究センター賞」と「ニュービジネス大賞」を受賞。2007年に国土交通大臣表彰を受けた。12年には「超高速happy gate門番システム」が第4回「ものづくり日本大賞」の製品・技術開発部門で優秀賞を受賞するなど、先進性のある商品開発で勲章も獲得している。